

ほけんだより

～すくすくげんき～

子どものやけどに気を付けましょう

子どものやけどの原因で一番多いものは①味噌汁・スープ②熱湯③お茶・コーヒー類④麺類という順番で東京消防庁の集計がでています。ご飯の準備でテーブルの上に熱い汁物をおいておいたらテーブルクロスを引っ張ってしまい、頭からかぶってしまったケースやポットやケトルの電気コードにつまづいてそのまま熱湯をかぶってしまい、救急受診するケース。そのほかに、やけどによる救急搬送が0・1歳では年間300件以上あるそうです。

子どものやけどを防ぐために

やけどの恐れのあるものは、子どもの手の届くところに置かない。

電気ポットなどはチャイルドロックなどがついている安全な製品を使用しましょう。また子どもが、コードに足を引っ掛けないように注意しましょう。

子どもを抱いたままの調理や、熱いものを飲食しないようにしましょう。

応急手当

- ① 水で冷やす
 - 水道水などの清潔な水で冷やす。
 - 衣類を着ている場合は、衣類ごと冷やす。
 - 洗面器等を用いて受傷部に水道水が直接当たらないように冷やす。
- ② 広範囲のやけどのときは、早く医療機関を受診する。



東京消防庁 STOP!子どもの「やけど」より抜粋 <https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/topics/stop/stop04.html>

お願い

体調が悪くお休みの際、お子さまの症状を詳しくお知らせください。どのような症状がいつから出てどのような経過をたどっているのか把握しています。登園前に37.5度以上の時は、解熱後1日ご自宅で様子をみていただくようご協力をよろしくお願いします。発熱は思った以上に体力を消耗し、無理に登園すると症状が長引いたり、悪化することもあります。咳・鼻の風邪症状以外で、何か感染症の診断がついた場合は、保育園までご連絡ください。また、ハウスダストのアレルギーと診断されているお子さまは症状がある際には医師の診断のもと内服などを

継続するようお願いいたします。

11月感染症状況

発熱…4名

咳鼻水…5名

喘息…1名

下痢・軟便…1名



知っておきたい乳児のスキンケア

体の洗い方、外用薬・保湿剤の塗り方実践法

・赤ちゃんの湿疹・皮膚炎の予防には、スキンケアがとても大切です。スキンケアによって、皮膚のバリア機能を保つことで、アレルギーの侵入を防ぐことができます。

健康な皮膚のバリア機能を維持するために、正しいスキンケアの方法を知っておきましょう。



皮膚を清潔に保つ洗い方のコツ

・皮膚を洗う時には、石鹸をよく泡立てて、その泡で洗います。泡は洗浄力の目安です。泡立っている＝洗浄力がある、と考えることができます。また、クッションとなって摩擦による皮膚への刺激を少なくする働きもあります。

逆さまにしても落ちないくらいの、きめの細かい、しっかりとした泡を作りましょう。

洗い忘れに注意

関節はしわが多く、しっかり洗ったつもりでも、洗えていないことが多い場所です。しわをのぼして洗いましょう。



洗い忘れる部分

外用薬や保湿剤の塗り方のコツ

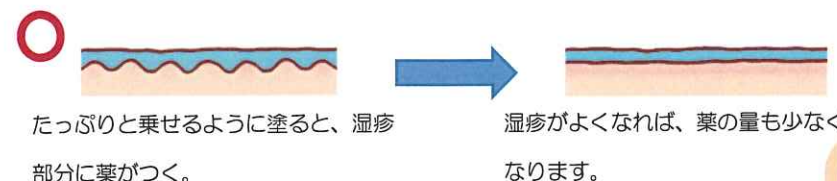
お風呂で顔や体を洗って皮膚を清潔にしたら、すぐに外用薬や保湿剤を塗ります。

アトピー性皮膚炎では、皮膚の炎症を抑える外用薬、皮膚を乾燥から守る保湿剤が処方されます。軟膏タイプやクリームタイプ、いずれも塗り方は同じです。

効果を最大限に発揮させる塗り方のコツを覚えましょう。

軟膏を塗るときのポイント

- ① 塗る人の手をきれいに洗う
 - 不潔なままだと、手についている細菌や刺激物が体についてしまうことがあります
- ② 入浴後、水分を拭き取ったらすぐに塗る
 - 皮膚の乾燥を防ぐためにできるだけ早く、軟膏を塗りましょう。
- ③ たっぷりと皮膚に乗せるように塗る
 - 湿疹のある部分は吸収がよいので、すり込む必要はありません。また、湿疹がある部分はデコボコしているため、軟膏を薄くのぼしたり、すり込んでしまうと、出っ張っている部分に薬がつかず、よくなりません。



大人の両手のひら分の面積に塗る量

＝チューブの薬を、大人の人差し指の先から第一関節まで出した量

＝0.3～0.5g程度

すり込んだり、薄く塗ると湿疹部分に薬がつかない。

※ただし、担当の医師からの指示がある場合には、それに従ってください。

独立行政法人 環境再生保全機構～知っておきたい乳児のスキンケア～より抜粋

https://www.erca.go.jp/yobou/pamphlet/form/00/archives_a-000.html

